

ときを越え
受け継がれるもの

下小路の桜並木

Ⅱ 前沢区下小路 Ⅱ

江戸時代に仙台藩が設けた「所」の城下町として栄えた前沢。お物見公園の高台にあった前沢城が取り壊され、旧前沢小学校の場所に領主の屋敷が移されると、その周辺に家臣宅、街道沿いに商家、町の両端に足軽屋敷が配置され、南北に長い町が出来上がった。高台へと続く上野坂には、交通の発達に伴い昭和9年に自動車も通行できる現在のつづらおりの道路が整備された。この頃、最初の桜を植えたといわれている。桜が老木となった昭和55年、桜の景観を残そうと在京前沢町友会が旧前沢町に苗木の寄贈を開始。町はお物見公園や上野坂などに後継樹を植えたほか、公共施設や街路にも植樹して桜の保存に努めた。現在、同公園と下小路一帯の桜は約200本を数える。市街地から高台へと続く下小路の桜並木。お物見公園を訪れる参観者を、桜のアーケードが迎え入れる。

1 往時は侍屋敷が置かれていた下小路の街路。いまは閑静な住宅街に保育園や放課後子ども教室などがあり、桜並木が子どもたちの成長を見守っている 2 前沢総合支所から望む下小路の上野坂。桜の開花中は、夜間ぼんぼりがほのかに花を照らす 3 上野坂の桜は、標高差により開花時期が微妙に異なるため、坂道を上りながら桜の開き具合を楽しむことができる
(写真は全て平成28年4月16日撮影)



広告